

報
告

昭和五十六年度大会の概況 日本思想史学会昭和五十六年度大会は、十月三十一日(土)・十一月一日(日)・二日(月)の三日間にわたり、筑波大学を主会場として開催された。

第一日は、公開講演が行なわれた。講演者と演題は次の通りである。

『平家物語』

中世における道の思想

東京大学教授 相良 亨
東京成徳短期大学教授 渡部 正一

講演終了後筑波大学第三学群棟食堂において懇親会が催された。

第二日は研究発表と総会が行なわれた。研究発表は午前と午後、それぞれ三会場に分れて行なわれたが、発表者は次の諸氏である。

- | | | |
|---------------------------------------|------------|--------|
| 1、法然の三心観 | 東北大学大学院 | 市川 浩史 |
| 2、道元の絶対現成について | 中央大学大学院 | 半田 栄一 |
| 3、罪業意識と減罪 — 日蓮をめぐって— | 東京大学大学院 | 田中 久文 |
| 4、近世儒学の動向 — 徂徠学の形成にみる— | 東洋女子短期大学講師 | 黒住 真 |
| 5、山鹿素行の学の構造について | 九州大学大学院 | 立花 均 |
| 6、伊藤仁斎における「自暴自棄者」について | 東京大学大学院 | 豊沢 一 |
| 7、国学者の凡人(たたびと)観 | 筑波大学教授 | 芳賀 登 |
| 8、篤胤学における教育思想の特質—「道」の民俗化による事実学的思惟の展開— | 筑波大学大学院 | 河原 国男 |
| 9、明治初年の儒学排耶論—安井息軒『弁妄』と鬼神観— | 筑波大学大学院 | 小林 幸夫 |
| 10、後北条氏と源平交代思想 | 捜真女学校教諭 | 佐藤 和夫 |
| 11、思想史研究と古文書学 | 早稲田大学名誉教授 | 萩野 三七彦 |
| 12、大学に「校」不要のわけ | 学習院大学名誉教授 | 田中 治 |
| 13、「サ」といふ語のもつ思想的意味について | | 寛 泰彦 |

- 14、仁齋学の形成原理 — 朱子学とのかわりを中心にして — 筑波大学大学院 李基東
- 15、西川如見の理気説・天人説について 群馬工業高専助教授 柳沢南
- 16、荻生徂徠の兵学観 東北大学大学院 前田勉
- 17、三浦梅園と本居宣長 国士館大学教授 高橋正和
- 18、吉田松陰の天皇観 九州大学教授 山口宗之
- 19、明治における江戸洋学観の展開 岩手大学教授 藤原遷
- 20、内村鑑三の「聖書」解釈 青山学院大学教授 小原信
- 21、北一輝の維新革命論 東北大学大学院 岡崎正道
- 22、江戸川乱歩と萩原朔太郎 愛知教育大学助教授 渡辺和靖
- 23、丸山政治思想史学と天皇制国家批判 — 『日本政治思想史研究』論考 — 池田元

総会は十一時半から行なわれ、事務局から五十五年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて事務局から五十六年度事業計画案、および予算案が提出され、審議の結果、それぞれ承認された。

大会第三日は茨城県内の見学旅行が行なわれた。